

ムクゲカメムシ類の角亀川流域における生息状況

菅藤康平

角亀川 (図 1) は、兵庫県たつの市新宮町二柏野地域を流れるやや小さい川である。この川では、兵庫県立大学附属高等学校自然科学部生物班員によるファウナ調査が実施されており、筆者自身もその調査を行ってきた。

ムクゲカメムシは、体長 0.5 ~ 3.0mm の世界最小級のカメムシの仲間で、世界に約 430 種、日本に 9 種が知られているが、微小で地味で目立たないため採集例が少なく、都道府県レベルで取りまとめた報文は少ない。本校自然科学部生物班においても、これまでムクゲカメムシ類のファウナ調査は調査されておらず、角亀川におけるムクゲカメムシ相は長らく不明のままであった。

筆者は、2024 年 6 月から 2024 年 9 月まで当地で調査した結果、2 種のムクゲカメムシ類の生息を確認することができたため報告する。

調査で得られたムクゲカメムシ類の 2 種を以下に示す。採集地は全て兵庫県たつの市新宮町二柏野角亀川流域であり、記録者も全て筆者であるため省略した。

1. カワラムクゲカメムシ

Pachycoleus japonicus (Miyamoto, 1964) 図 2

【採集記録】川岸の石の下：26. VI. 2024, 5. VII. 2024.

2. トビイロムクゲカメムシ

Alpagut masakazui Yamada & Hayashi, 2020 図 3

【採集記録】川岸の石の下：5. VII. 2024, 10. IX. 2024.

今回の調査では、2 種類のムクゲカメムシ類の生息状況が明らかになった。しかし、調査期間が短かったこと、調査区域が狭い範囲だったことから、角亀川のムクゲカメムシ相の生息状況が全て明らかになったとは言えない。今後も本校自然科学部生物班で調査を継続していく方針である。

末筆であるが、同定等にご協力いただいた山田量崇氏に厚くお礼申し上げる。

(Kohei KANTO 兵庫県立大学附属高等学校)



図 1.



図 2.



図 3.

芦屋市におけるヒトエグモ *Plator nipponicus* の写真記録

西 隆広

ヒトエグモは兵庫県版レッドリスト 2017 (哺乳類・爬虫類・両生類・魚類・クモ類) 1) で A ランクである (兵庫県, 2017)。本種について芦屋市内で次の写真記録を得たので報告する。この個体は、住宅のコンクリート塀に静止していた。筆者はクモ類について不案内であるが、所有の図鑑 (八木沼, 1960) により同定した。

ところで本種の県内での観察場所に関する兵庫県レッドリストの記述は、『豊岡市では大工小屋の木材の隙間、川西市では人家の室内、姫路市内の寺院の漆喰の壁でそれぞれ見つかっている。いずれも人家と関係が深い場所で、日本における従来の発見例と類似したパターンである』となっている (兵庫県, 2017)。所有の図鑑では、本種の観察例は建物や石碑などの隙間に多いとのことであるが (八木沼, 1960)、この個体は隙間ではなく道路に面した宅地のコンクリート塀の道路側で、前面



写真 1.

には遮蔽物がない開けた場所に静止していた。道路は車の通行も人通りも極めて少ない。本種の静止していた塀の面は当日日陰だった。当時の天候は晴れ、当日は前々日の大雨で気温がやや低かったと野帳に記述している。

本種を撮影した地域は、城山（鷹尾山）南麓に位置し、現在は住宅街が広がっている。かつて当地域周辺を含む一帯は、芦屋川の流下水を利用した水車群が江戸から昭和初期まで存在していた（芦屋市教育委員会，2007）。そして需要に応じ絞油（菜種油絞り）、精米（酒米）、製粉（素麺原料）をおこなっていたが、大正時代以降モーター動力の普及で衰退し、昭和初期、精道村（芦屋市の前身）による芦屋川上流から導水する水道事業の過程で、昭和6年（1931年）に水車稼働の水利権が解消され多くが廃業した。当地域どのような経過をたどって現在の土地利用に至ったかについては不明であるが、大規模な土地改変を伴う宅地開発は行われず現在に至っていると推定される。

芦屋市山芦屋町, 16. VII. 2020 (写真 1)

○引用文献

- 芦屋市教育委員会, 2007. 芦屋川水車場跡地発掘調査報告書—城山古墳群第120号墳と芦屋川水車場跡地の発掘調査成果. 芦屋市文化財調査報告, 71.
- 兵庫県, 2017. 兵庫県版レッドリスト2017（哺乳類・爬虫類・両生類・魚類・クモ類）. <https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/application/files/7015/0581/4456/9a76965632b8fac42519cbcbcbf79eb2.pdf>（最終閲覧：2025年1月）
- 八木沼健夫, 1960. 原色日本蜘蛛類大図鑑. 保育社, 大阪. 186pp.

(Takahiro NISHI 兵庫県芦屋市)

養父市でコガタノゲンゴロウを初記録

泉山真寛

2024年12月に兵庫県養父市でコガタノゲンゴロウ *Cybister tripunctatus lateralis* が初めて確認されたので報告する。なお、希少な昆虫につき、調査地の詳細は明らかにしないことをお断りしておく。12月21日及び25日に調査を実施し、計2個体が採集された。



養父市産コガタノゲンゴロウ。

本種は全国的にも個体数が減少し、環境省のレッドデータカテゴリでは、絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定されている。また、兵庫県内では、絶滅危惧Ⅰ類（Aランク）に指定されている（兵庫県版レッドリスト2022（昆虫類））。近年では、一度は兵庫県但馬地域では絶滅したと考えられていたが、雌成虫1個体が兵庫県豊岡市の溜池で発見された（杉浦，2021）。また、2024年には、兵庫県美方郡新温泉町にて、初めて本種の生息が確認された（泉山，2024）。

今回発見された場所は、これまで筆者が定期的に水生生物の調査を実施している水域である。2024年10月12日および11月10日に調査を実施していたが、その際は発見されなかった。コガタノゲンゴロウは飛翔性向が強く、分散距離も数kmと推定されており（國本，2005；國本，2006），近隣の個体が飛翔してきた可能性がある。

○引用文献

- 泉山真寛, 2024. 美方郡新温泉町でコガタノゲンゴロウを初記録. きべりはむし, 47 (2): 69.
- 國本洗紀, 2005. コガタノゲンゴロウの生態 (その1)- 越冬場所と繁殖地 -. ゆらぎあ, 23: 1-7.
- 國本洗紀, 2006. コガタノゲンゴロウの生態 (その2)- 繁殖地と越冬地間の移動 -. ゆらぎあ, 24: 1-6.
- 杉浦真治, 2021. 兵庫県北部におけるコガタノゲン